

事業所名		西区障がい者相談支援センター				変更又は改善内容			
0 相談支援事業所の概要		昨 年 度				今 年 度			
0-1 実施状況について									
	法人名称	大阪市手をつなぐ育成会							
	法人所在地	大阪市天王寺区東高津町12-10							
	事業所名称	大阪市育成会							
	事業所所在地	大阪市西区本田2-5-16							
	電話番号	06-6585-2550							
	ファックス	06-6585-2545							
	実施曜日	月曜日から金曜日（祝祭日除く）							
実施時間	9:00～17:30								
同一場所で実施しているその他の事業	居宅介護事業・重度訪問介護事業・移動支援事業 指定特定・一般相談支援事業								
実施法人で実施しているその他の事業	知的障がい児親子通所訓練事業・生活介護・自立訓練（生活訓練・宿泊型） 施設入所支援・就労移行・就労継続B型・共同生活介護・共同生活援助 短期入所・日中一時支援								
事業所の特長	法人で知的障がい者の事業を展開しており、複数区で相談支援事業を行っており、知的障がい者のサービスには繋げやすく、情報の共有、協力体制が構築されており、事業所間で相談しやすい環境にある。								
0-2 事務室等について									
	事務室	41.0㎡	<input checked="" type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
	相談室	8.2㎡	<input checked="" type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
	その他		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
0-3 職員の状況									
	常勤職員		非常勤職員		常勤職員		非常勤職員		
	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	
	2人	1人			1人	1人			
0-4 職員の勤務体制		月曜日から金曜日（祝祭日は除く）の9:00～17:30勤務。この時間帯以外で緊急に入った連絡は留守番電話か携帯電話で対応。担当者が外出等で電話にできない場合は、同事業所の職員が対応。							
0-5 ピアカウンセリングの実施状況									
	障がい名	実施曜日	実施時間		障がい名	実施曜日	実施時間		

事業所名	西区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
1 事業運営全般	昨 年 度	今 年 度
1-0 理念・基本方針	<p>利用者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者等の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者等の選択に基づき、適切な保健、医療、福祉、就労支援、教育等のサービス（以下「福祉サービス等」という。）が、多様な事業所から、総合的かつ効率的に提供されるよう配置して行われるものとする。</p> <p>市町村、障がい福祉サービス事業者等との連携を図り、地域において必要な社会資源の改善、開発に努めるものとする。</p> <p>利用者等の意思及び人格を尊重し、常に利用者等の立場に立って、計画作成対象障がい者に提供される障害福祉サービス等の種類又は特定の障害福祉サービス事業を行う者に不当に偏ることのないよう、公正中立に行うものとする。</p> <p>障害者総合福祉法に定める内容のほか関係法令等を遵守し、事業を実施するものとする。</p>	

事業所名		西区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-1 運営体制		昨年度		今年度	
1-1-① 事業運営の評価		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	事業の理念・基本方針を実現するための具体的な取り組みを示す中・長期的な計画が定められている。	2	単年度の計画は策定しているが、3～5年の中・長期の計画の策定できておらず、具体的な取り組みを考察するところまでは至っていない。利用者・地域の把握に留まっている状況である。	3	共に生き共に支えあい、誰もが自分らしく安心して暮らせる地域、さらにみんなが生活を共に楽しむ地域を、地域の住民や行政をはじめ、地域に関わるすべての人の力で作り上げていく福祉で、「人権尊重」「住民主体」「利用者本位」「社会的援護を要する人々への支援」の基本的な考え方を踏まえて、地域づくりをめざす。
			利用者の状況や地域の特性等を踏まえた上で、検討、協議の上、策定していく。		区の基本方針と相違がないよう、区のアクションプランをベースに作成している。
b	中・長期的な計画を踏まえた年度ごとの事業計画を策定している。	2	単年度の事業計画は策定しているが、3～5年の中・長期事業計画の策定までは至っておらず、利用者・地域の把握に留まっている状況である。	3	中・長期事業計画に基づいた地域支援を行っていく上での関係機関との連携・協働できる体制の構築をしていく。
			利用者の状況や地域の特性等を踏まえた上で、検討、協議の上、策定していく。		年度事業計画を作成し、結果、評価をし、次年度に繋げていく。
c	中・長期計画、年度ごとの事業計画に基づき事業を実施し、その結果を評価している。	2	単年度の事業計画は策定しているが、3～5年の中・長期事業計画の策定までは至っておらず、利用者・地域の把握に留まっている状況である。それゆえ、単年度の評価になってしまっている。	2	利用者・地域の把握を進め、関係機関との連携を図り、体制作りに努めてきた。
			利用者の状況や地域の特性等を踏まえた上で、検討、協議の上、策定していく。		中・長期事業計画、事業所年度計画を作成して、その結果、評価を精査し、次年度に繋げていく。
d	事業の評価の結果は、次期計画に反映している。	2	今回、初めての自己評価の為、反映はされていない。	3	中・長期事業計画、事業所年度計画を作成して、その結果、評価を精査していく。
			今回の自己評価、中長期計画等を踏まえた上で、次期計画を策定していく。		中・長期事業計画、事業所年度計画を作成して、その結果、評価を精査し、次年度に繋げていく。

事業所名		西区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2 適切な相談支援の実施		昨年度		今年度	
1-2-① 自己決定の尊重		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	必要な情報を理解できるように提供するとともに、体験、経験する機会を設けるなど利用者が主体的に自己決定するための条件整備に努めている。	4	情報提供の際は、必ず、本人に口頭で説明をし、理解してもらえるよう心掛けている。見学や体験を通し、時間を掛けて自己決定してもらえるようにしている。	4	
			利用者主体の自己決定を促す為のより分かりやすい、より丁寧な情報提供の方法や手段の確立と、環境の整備をしていきたい。		
b	障がいに応じたコミュニケーション手段を保障している。	4	利用者の障がい特性、個人の個性に応じたコミュニケーション手段を検討し、実施している。	4	
			コミュニケーション手段、方法を多様化させ、より利用者個々に合った手段、方法で、コミュニケーションを図れるよう努力していきたい。		
1-2-② エンパワメントの重視		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談支援を進めるにあたっては、常に利用者のエンパワメントが図られるよう努めている。	3	利用者の個性、特技、長所の把握に努め、自らの意思で自己実現できるよう、利用者主体の支援を心がけている。	3	利用者の個性、特技、長所の把握に努め、自らの意思で自己実現できるよう、利用者主体の支援を行ってはいるが、事業所が主体となつての社会資源の開拓、開発までは至っていない。
			利用者の個性、特技、長所を活かせるような、社会資源の開拓や開発。その様な資源情報が提供できるようにしていく。		利用者の個性、特技、長所を活かせるような、社会資源の開拓や開発。その様な資源情報が提供できるようにしていく。

事業所名		西区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2-③ コミュニケーションに関する配慮		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	意思伝達に制限のある人の場合、手話や点字、筆談、映像を利用するなど、その人に合った個別のコミュニケーション手段を検討し、それに基づく対応を行っている。	4	利用者の障がい特性、個人の個性に応じたコミュニケーション手段を検討し、実施している。	4	
			コミュニケーション手段、方法を多様化させ、より利用者個々に合った手段、方法で、コミュニケーションを図れるよう努力していきたい。		
b	一度の面接では意思確認等が困難であるような、著しく意思伝達に制限のある人の場合、日常的な関わりを通じて、その人固有のコミュニケーション手段やサインの発見と確認を心がけている。	4	複数回の面談や訪問を心がけており、関わりのある他の事業所や従事者、保護者や親類からの情報提供を参考にして、個別のコミュニケーション手段や方法を検討し、実施している。	4	
			コミュニケーション手段、方法を多様化させ、より利用者個々に合った手段、方法で、コミュニケーションを図れるよう努力していきたい。		
c	意思伝達に制限のある人の場合、他機関職員との連携や、本人が信頼できる知人、代弁者、手話通訳者等を受け入れるなど、コミュニケーションを行う環境に配慮して、その人の意思や希望をできるだけ正しく理解しようと努力している。	4	利用者に関わっている他の事業所や親類等に、面談や訪問時に同行同席をしてもらい、スムーズな意思伝達できるよう、サポートをお願いしている。	4	
			関わりのある他事業所や親類等との連携を高め、よりスムーズな意思伝達方法の創意工夫、方法、手段の習得をしていく。		

事業所名		西区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2-④ 権利擁護		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談支援を進めるにあたっては、常に利用者の立場を擁護し、ニーズ表明を支援・代弁することにより、問題解決力や様々な支援を活用する力を高めていけるような支援に努めている。	3	利用者の個性、特技、長所の把握、利用者の意思を尊重した支援に努め、自らの意思で自己実現できるよう心がけている。	3	利用者の個性、特技、長所の把握に努め、自らの意思で自己実現できるよう、利用者主体の支援を行っているが、事業所が主体となつての社会資源の開拓、開発までは至っていない。
			利用者の個性、特技、長所、意思を活かせるような、社会資源の開拓や開発。その様な資源情報が提供できるようにしていく。		利用者の個性、特技、長所を活かせるような、社会資源の開拓や開発。その様な資源情報が提供できるようにしている。
	b	人権侵害が発生した場合にはその解決のために積極的に対処している。	3	人権侵害、虐待の報告、通報はなかったが、人権侵害と思われる事柄が発生した場合は、関係機関との会議の場を設け、支援内容、対応の検討を図り、対処するようにしている。	3
人権侵害と思われる事柄が発生した場合は、関係機関との会議の場を設け、支援内容、対応の検討を図り、対処するようにしていく。				人権侵害と思われる事柄が発生した場合は、区保健福祉センターや関係機関との会議の場を設け、支援内容、対応の検討を図り、対処し、啓発にも力を注ぐ。	
c	虐待が危惧される場合は、関係行政機関と連携し適切な対応を行っている。	3	人権侵害、虐待の報告、通報はなかったが、虐待と思われる事柄が発生した場合は、区保健福祉センターや関係機関等との会議の場を設け、支援内容、対応の検討を図り、対処するようにしている。	3	虐待と思われる事柄の発生に対し、区保健福祉センターや関係機関等との会議の場を設け、支援内容、対応の検討を図り、対処を行い、地域啓発を行った。
			虐待と思われる事柄が発生した場合は、区保健福祉センターや関係機関等との会議の場を設け、支援内容、対応の検討を図り、対処し、啓発にも力を注ぐ。		虐待と思われる事柄が発生した場合は、区保健福祉センターや関係機関等との会議の場を設け、支援内容、対応の検討を図り、対処し、啓発にも力を注ぐ。

事業所名		西区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3 地域・他機関との交流・連携		昨年度		今年度	
1-3-① 他の関係機関との連携		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	担当区域の地域自立支援協議会に積極的に参加し、様々な取組を提案するなど、協議会の活性化に努めている。	2	会議事態には積極参加しているが、取組の提案をするまでには至っていない。	3	自立支援協議会に必ず参加し、共に試案して議会を進めてはいるが、活性化までには至っていない。
			自立支援協議会に参加も1年がすぎ、求められている役割を理解し、協議会の活性化に努める。		相談支援としての役割を理解し、協議会の活性化に努める。
b	協働する関係機関や関係団体等が増え、連携が深まっている。	2	ケース支援していくなかで、協働する関係機関や団体は増加をしているが、連携が深まっているところまでは至っていない。	3	個別での支援ケースの中で、協働する関係機関や団体と連携を図りながら支援に当たってきた。その際、担当者会議等を頻繁に行い、連携を図っている。
			協働する関係機関や団体を増やすことも大切ではあるが、1つ1つの関係を密な関係にしていけるよう、日々の連絡や訪問を重要視し、取り組む。		担当者会議等を行っていく事で、1つ1つの関係をより密な関係にしていけるよう、取り組んでいく。
1-3-② 地域の障がい者の状況把握		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談者に限らず、地域の障がい者を取り巻く状況や課題はおおむね把握できている。	2	保護者や地域の施設、事業所を通して、情報の収集をしており、状況や課題を把握できるように心がけている。	2	
			保護者や地域の施設、事業所を通して、情報の収集をし、状況や課題の把握する。		
b	障がい者支援機関のみならず地域の福祉・労働・教育・保健医療機関と定期的な会議を開催する等によって、ニーズの把握に努めている。	2	必要に応じて、個別での連絡や会議は行っているが、定期的に会議を開催するところまでは至っていない。	3	障がい支援機関や地域の福祉・就労と定期的な会議を行い、ニーズの把握に努めてはいるが、教育、医療機関とは、単発的な会議はあるものの定期的な会議を行うところまでは至っていない。
			他の関係機関との関係性を構築するだけでも、難しい事なので、福祉関係の施設、事業所とで連絡会等の集まりを作っていく。		定期的な会議の充実を図りながら、医療機関や教育機関に対し働きかけを行っていく。

事業所名		西区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
c	アウトリーチ活動に取り組むことにより、ニーズの把握に努めている。	2	積極的に要支援者の掘り起こしは出来ておらず、地域の事業所等の情報を頼りにニーズを把握している状況。	2	
		2	効率よいアウトリーチ活動の為に、より地域に密着した施設や事業所からの情報を元に活動していく。		
1-3-③ 地域の社会資源の把握		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	サービス提供事業所や専門相談機関を把握している。	4	ケース支援を通し、事業所や施設を訪問し、話しを伺っており関係性を築いている。	4	
		4	事業所や施設を訪問し、情報の交換を通して、より密な関係性を構築していく。		
b	学校園・ハローワークなど関連機関の情報を収集している。	3	ケースに応じて、ハローワークとは連携し情報収集はしているが、学校園とは該当事例がなかった事もあり出来ていない状態。	3	該当利用者が少ない事もあり、単発的には会議等に参加し、情報の交換はしているが、定期的な会議等の開催には至っていない。 定期的な会議の必要性等、学校園やハローワークに対し働きかけを行っていく。
		3	障がい児ケースを通して、学校園との関係を築き、情報の収集にあたる。。		
c	民生委員、地域ネットワーク委員、ボランティア団体などを把握している。	2	地域での取り組み、自立支援協議会や障がい者・児の部分などを通して、情報は得ているが、把握まではしきれていない。	2	
		2	情報の集約し、挨拶訪問などを通して関係性を作り、把握していく。		
d	駅や図書館、スポーツセンターなどの公共施設や、金融機関や飲食店、商店などの民間施設、障がい者用トイレやエレベーター等の設備の情報を収集している。	3	福祉マップなどの情報を活用しているが、民間施設の設備までは把握できていない。	3	
		3	利用者 1人1人の声や介護者からの情報を集約して、民間施設の設備情報を把握する。		

事業所名		西区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3-④ 社会資源の改善・開発に向けた取組み		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
a	既存のサービスの活用だけでなく、既存の社会資源の「改善」や新たな社会資源の「開発」に向けて取り組んだ。	3	既存のサービスの提供者と協力・相談させてもらいながら、利用者にとって、利用しやすい環境の整備には努めてきたが、改善・発展までには至っていない。	3	
			利用者のニーズ理解なくして、新たな社会資源の開発など出来ないのので、より多くの利用者のニーズ、要望を引き出していく。		
1-3-⑤ 支援困難事例への積極的な対応		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
a	多問題を抱えた事例や、問題が長期にわたって継続し、解決の糸口を見つけないことが困難な事例など支援困難事例への対応を積極的に行っている。	4	支援困難なケースも継続的に関わっており、法人内の相談支援同士や他の関係機関に相談し、協力しながら対応する様にはしている。	4	
			支援困難なケースも継続的に関わっており、法人内の相談支援同士や他の関係機関に相談し、協力の強化を図る。		
1-3-⑥ 地域住民への周知・啓発的活動の実施		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
a	障がい者相談支援センターは、自らの役割について地域住民に対して積極的な周知を図っている。	3	リーフレット等の配付はしているが自ら積極的には周知をしていないが、毎朝、地域清掃を行っており、地域住民の理解は得られていると考えている。	3	行事等に参加し、リーフレット等の配布や地域での学習会に招待され、支援センターの役割等の説明をさせてもらい、地域住民に対して周知を行っている。
			可能な地域行事に参加し、障がい者相談支援センターの役割の周知、障がい者理解を進めていく。		可能な地域行事に参加し、障がい者相談支援センターの役割の周知、障がい者理解を進めていく。
b	地域住民との交流や講演会の開催等を通じて、障がい者が地域で共に生きていく意義をはじめ、啓発的活動に積極的に取り組んでいる。	2	自立支援協議会や障がい者・児部分の行事には参加し、一緒に啓発的活動に取り組んでいるが、自ら独自では取り組めていない。	3	行事等に参加し、啓発活動を行い、活動の一環として、地域での学習会に招待され、障がい者に対する理解と地域での協力を求める話をする機会をいただいた。
			可能な地域行事に参加し、障がい者相談支援センターの役割の周知、障がい者理解を進めていく。		可能な地域行事に参加し、障がい者相談支援センターの役割の周知、障がい者理解を進めていく。

事業所名	西区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
1-4 その他の取組み	昨年度	今年度
	<p>本人活動の場を提供 府の育成会と協力して、月2回 サロンを開催。 利用者が集い、友人作りや自らが行事を企画したりする場として 活用されている。</p>	

事業所名		西区障がい者相談支援センター					変更又は改善内容													
2 日々の相談支援業務		平成24年度					平成25年度													
2-1 継続支援対象者数																				
①継続的な委託相談支援を行った実人数（指定相談支援を除く）																				
	障がい種別	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数											
身体障がい	視覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	聴覚	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1							
	肢体	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1							
	内部	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0							
	計	0	1	0	1	2	1	0	0	1	0	0	2							
	知的障がい	5	3	0	8	8	0	0	0	8	0	0	0	8						
	精神障がい	1	6	0	7	7	0	0	0	7	0	0	0	5						
	障がい児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
	重複障がい	0	2	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0						
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
合計	6	12	0	18	18	1	1	0	18	1	4	0	15							
②指定特定相談支援を実施した実人数		身体障がい	知的障がい	精神障がい	重複障がい	計	身体障がい	知的障がい	精神障がい	重複障がい等	計									
		9人	5人	1人	1人	16人	2人	8人	5人	0人	15人									
2-2 相談支援内容		平成24年度					平成25年度													
①延べ相談件数	身体障がい					知的障がい	精神障がい	重複障がい	その他	計	身体障がい					知的障がい	精神障がい	重複障がい	その他	計
	視覚	聴覚	肢体	内部	計						視覚	聴覚	肢体	内部	計					
福祉サービスの利用援助	2	0	35	3	40	66	31	3	21	161	0	1	2	8	11	72	27	7	20	137
うち、継続的な支援対象者の件数	0	0	17	0	17	50	15	3	0	85	0	0	0	4	4	19	11	2	7	43
社会資源を活用するための支援	0	0	8	0	8	214	25	9	2	258	0	0	0	0	0	174	7	0	0	181
うち、継続的な支援対象者の件数	0	0	8	0	8	209	19	8	0	244	0	0	0	0	0	158	3	0	0	161
社会性活力を高めるための支援	0	0	2	0	2	5	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
うち、継続的な支援対象者の件数	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ピアカウンセリング	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち、継続的な支援対象者の件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
権利擁護のために必要な援助	0	0	1	0	1	0	10	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち、継続的な支援対象者の件数	0	0	0	0	0	0	10	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
専門機関の紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
うち、継続的な支援対象者の件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
その他	0	6	15	0	21	159	44	0	2	226	0	0	0	3	3	70	31	0	11	115
うち、継続的な支援対象者の件数	0	4	7	0	11	149	24	0	0	184	0	0	0	2	2	41	11	0	0	54
合計	2	6	62	3	73	444	110	12	25	664	0	1	2	11	14	316	69	7	31	437
うち、継続的な支援対象者の件数	0	4	32	0	36	412	68	11	0	527	0	0	0	6	6	218	26	2	7	259
②相談の実施方法		来所相談	電話相談	訪問相談	その他	合計	来所相談	電話相談	訪問相談	その他	合計									
		189件	278件	148件	49件	664件	93件	179件	158件	7件	437件									

事業所名	西区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
<p>2-3 日々の相談件数の分析</p>	<p style="text-align: center;">平成24年度</p> <p>障がい種別としては、一般相談は 知的、精神とで人数に大きな違いはないが、計画相談では 精神に特化した相談支援があるので極端に精神の人数が少なくなる。逆に、身体は計画で極端に増えている。難病の相談も件数としては少ないが、セルフプランを選択される方が多く、継続支援までは至っていない。</p> <p>相談内容は、福祉サービスの利用援助と社会資源を活用するための支援が、圧倒的に多い。福祉サービスでは 圧倒的に居宅サービスの利用の相談が多い。</p>	<p style="text-align: center;">平成25年度</p> <p>平成24年度は初年度との事もあり、頻繁に来所、電話連絡される利用者（知的・精神）が複数おられましたが、今年度に入り、落ち着いた感があるのと、関係機関へ繋いで行った事で、相談件数は減少している。知的の方が件数は圧倒的に多く、長期に渡る支援の必要性から、継続支援を行っている。身体障がいの件数が大きく減少しているが、要因は不明である。</p> <p>相談内容は前年と変化は見られず、福祉サービスの利用と社会資源の活用がほとんどであった。</p>

事業所名		西区障がい者相談支援センター				変更又は改善内容			
2-4 住宅入居等支援事業の実施状況		平成24年度				平成25年度			
①実施状況		入居斡旋件数	登録者数	緊急対応件数	入居斡旋件数	登録者数	緊急対応件数		
	身体障がい	0 件	0 人	0 件	0 件	0 人	0 件	0 件	0 人
	知的障がい	1 件	0 人	0 件	0 件	0 人	0 件	0 件	0 人
	精神障がい	0 件	0 人	0 件	0 件	0 人	0 件	0 件	0 人
	重複障がい	0 件	0 人	0 件	0 件	0 人	0 件	0 件	0 人
	その他	0 件	0 人	0 件	0 件	0 人	0 件	0 件	0 人
	計	1 件	0 人	0 件	0 件	0 人	0 件	0 件	0 人
②緊急対応の内訳		時間帯別		平日・休日別		時間帯別		平日・休日別	
	夜間出動	0 件	休日出動	0 件	夜間出動	0 件	休日出動	0 件	0 件
	日中出動	0 件	平日出動	0 件	日中出動	0 件	平日出動	0 件	0 件
	合計	0 件	合計	0 件	合計	0 件	合計	0 件	0 件
	出動要請者		出動内容		出動要請者		出動内容		
	本人	0 件	病気・けが等の発生	0 件	本人	0 件	病気・けが等の発生	0 件	0 件
	家主	0 件	精神症状の悪化	0 件	家主	0 件	精神症状の悪化	0 件	0 件
	近隣	0 件	日常生活上のアクシデント	0 件	近隣	0 件	日常生活上のアクシデント	0 件	0 件
	警察・消防	0 件	家事・災害等	0 件	警察・消防	0 件	家事・災害等	0 件	0 件
	医療機関	0 件	近隣からのクレーム	0 件	医療機関	0 件	近隣からのクレーム	0 件	0 件
	その他	0 件	その他	0 件	その他	0 件	その他	0 件	0 件
2-5 業務委託料の収支精算について		平成24年度				平成25年度			
①歳入		金額	内訳		金額	内訳			
	科目								
	業務委託料	9,888,000 円			9,838,000 円				
	預金利子	0 円			0 円				
	その他	1,728,274 円	経理区分間繰越金収入		1,308,490 円				
	合計	11,616,274 円			11,146,490 円				
②歳出		金額	内訳		金額	内訳			
	科目								
	人件費	8,534,074 円			8,276,754 円				
	常勤職員人件費	4,387,200 円			4,281,600 円				
	非常勤職員人件費	0 円			0 円				
	その他	4,146,874 円			3,995,254 円				
	物件費	3,082,200 円			2,869,736 円				
	報酬	0 円			0 円				
	賃金	0 円			0 円				
	報償費	0 円			0 円				
	消耗品費	172,274 円			42,660 円				
	印刷製本費	0 円			0 円				
	光熱水費	248,423 円			281,934 円				
	通信運搬費	211,028 円			193,352 円				
	手数料	84,622 円			42,530 円				
	筆耕翻訳料	0 円			0 円				
	使用料	0 円			0 円				
	不動産賃借料	2,100,000 円			2,100,000 円				
	備品購入費	0 円			0 円				
	その他	265,853 円			209,260 円				
	合計	11,616,274 円			11,146,490 円				

事業所名	西区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
3 区における地域課題について		
区における全般的な課題についての現状認識及びその解決・改善に向けた提案・提言など	昨 年 度	今 年 度
		<p>規模の大きな通所施設がなく、特に重複障がい者に対する送迎対応や施設での入浴サービスに対応は難しく、隣接区の施設に協力を求め対応するが、十分ではなく、利用者の細やかなニーズには対応しきれてない状況がある。今後も、継続的に協力を求めながら、福祉サービス以外で理解と協力を求めサービスを作り上げていく必要がある。</p> <p>防災に関しては、障がい者に対して、災害時の防災に対する知識と意識を高めていくのと同時に、地域住民に対して、災害時の障がい者への支援を求めるべく、一層の障がい者理解を図っていく。</p>

事業所名		西区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
4 自己評価を終えて		昨年度	
4-1 区協議会での報告			
	報告日	平成25年11月26日	平成26年11月17日
	出席者からの意見		地域や教育機関との連携に対して、障がい者以外の取り組みや行事、イベントに参加、協力をしていく事で、関係性を築いていく。
	0 相談支援事業所の概要	相談支援センター内や、法人内の相談支援センター間でのケース会議や運営会議の充実を図ると共に、区内の相談支援事業者での連絡会の開催等、連携の強化、あらゆる関係機関との連絡や訪問を通して、関係性の構築を図る事により、より個々に合った支援方法、手段を用いて、スムーズでスピーディな支援を実施する。	相談支援センター内や、法人内の相談支援センター間でのケース会議や運営会議の充実を図ると共に、区内の相談支援事業者での連絡会の開催等、連携の強化、あらゆる関係機関との連絡や訪問を通して、関係性の構築を図る事により、より個々に合った支援方法、手段を用いて、スムーズでスピーディな支援を実施する。
	1 事業運営全般	相談支援センター内や、法人内の相談支援センター間でのケース会議や運営会議の充実を図ると共に、区内の相談支援事業者での連絡会の開催等、連携の強化、あらゆる関係機関との連絡や訪問を通して、関係性の構築を図る事により、より個々に合った支援方法、手段を用いて、スムーズでスピーディな支援を実施する。 障がい児・者の防災の方法や手段、地域での理解や協力体制を考察し、構築していく。	相談支援センター内や、法人内の相談支援センター間でのケース会議や運営会議の充実を図ると共に、区内の相談支援事業者での連絡会の開催等、連携の強化、あらゆる関係機関との連絡や訪問を通して、関係性の構築を図る事により、より個々に合った支援方法、手段を用いて、スムーズでスピーディな支援を実施する。 障がい児・者の防災の方法や手段、地域での理解や協力体制を考察し、構築していく。
	2 日々の相談支援業務	あらゆる障がい、個人個人にあったコミュニケーション方法や手段を用いて、適切な支援が出来るよう、スキルの向上と検討に努力する。 支援終了後の支援内容の検証を行い、ホローして行ける様な体制の確立を目指していく。	あらゆる障がい、個人個人にあったコミュニケーション方法や手段を用いて、適切な支援が出来るよう、スキルの向上と検討に努力する。 支援終了後の支援内容の検証を行い、ホローして行ける様な体制の確立を目指していく。

事業所名		西区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
	3 区における地域課題について		<p>規模の大きな通所施設がなく、特に重複障がい者に対しての送迎対応や施設での入浴サービスに対応は難しく、隣接区の施設に協力を求め対応するが、十分ではなく、利用者の細やかなニーズには対応しきれてない状況がある。今後も、継続的に協力を求めながら、福祉サービス以外で理解と協力を求めサービスを作り上げていく必要がある。</p> <p>防災に関しては、障がい者に対して、災害時の防災に対する知識と意識を高めていくのと同時に、地域住民に対して、災害時の障がい者への支援を求めるべく、一層の障がい者理解を図っていく。</p>

事業所名	西区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
4-2 一連の自己評価のプロセスを終えて	昨 年 度	今 年 度
	<p>日々の業務に追われ、気づかなかった事柄、出来ている事、出来ていない事を把握でき、課題が見えてきた様に感じる。</p> <p>地域に弱さがある事から、より一層の地域理解に勤め、地域コミュニティへの積極的参加を心がけ、地域に根付いた事業所として発展を目指して行きたい。</p> <p>支援に対しても、適切な支援を行い、検証し、ホローしていける様な体制を築いていく 必要性を感じました。</p>	<p>依然、日々の業務に追われており、課題であった「地域との関わり」があまり進んでいない状況。助言等をいただき、来年度に繋げていく。</p> <p>より一層の地域理解に勤め、地域コミュニティへの参加を心がけ、地域に根付いた事業所として発展を目指していく。</p> <p>支援に対しても、昨年同様、支援に対し、随時、検証をし、適切な支援を行える様、連携の強化を図っていく。</p>